

会長からのご挨拶

このたび、平野前会長の後任として第5代目の会長に就任しました。本学会は2005年7月29日に当時東北大学に在籍されていた齋藤武雄先生のご尽力により設立されました。

本学会は、ヒートアイランドという都市生活者にとって身近な環境問題を幅広い研究分野、具体的には、理学（気象学、都市気候学、地理学、大気環境学）、工学（建築学、土木工学、機械工学、環境工学）、農学（緑化など）、経済学、医学などの研究者や、ヒートアイランドを含めて環境行政に携わっている自治体関係者、民間企業の技術者や研究者、さらには環境問題に関心の深い一般市民が連携して、現象の解明を行うのみならず、対策・技術を検討し、それらをパラレルに進めることで、対策の実現を目指すことを目的としております。

以上の本学会の設立趣旨・組織の特色が分かるのが、年1回開催する全国大会です。

第1回全国大会は学会設立約1年後の2006年7月に大阪市立大学文化交流センターで開催されました。大会の運営には大学や企業の研究者のみならず、自治体関係者や一般市民の方々も参加し、アットホームな中にも、ヒートアイランドをどうにか解決したいという熱意・共通認識の元で、熱心な発表・討論が行われたことを覚えております。

さて、本学会は上記のように、市民を巻き込んだヒートアイランド対策の実現を最終的な目標に掲げております。このためには、ヒートアイランド現象の解明と理解、日常生活や社会・経済活動への影響評価、有効な対策の開発と社会実装、加えて環境政策への提言など、多岐にわたる活動が求められます。

そこで本学会では、上述の全国大会以外にも、1)Web ジャーナル（学術論文集）の発行、2)一般の市民の方々も参加可能なプライムセミナーの開催、3)専門家に的を絞ったエキスパートセミナーの開催、4)「ヒートアイランドの事典」出版、5)スマートフォンでその場の暑さや涼しさなどの感覚を入力すると画面上に視覚的に結果が表示されるアプリ「暑さマップ」の開発など、ヒートアイランドに関する研究とヒートアイランド対策の普及・促進に向けて、多面的かつ精力的な活動に取り組んでいます。

一方、政策面からは、近年の地球温暖化の進展に伴い、高温化が昂進しつつある都市においては、地球温暖化防止の観点から省エネルギーを推進しつつも、ヒートアイランドが人の健康へ及ぼす影響を軽減する「適応策」へと対策が移りつつあり、昨年（2018年）6月13日に気候変動適応法が公布されました。

以上に本学会設立の趣旨や設立当時の活動、ならびに近年の活動状況について述べましたが、地球温暖化に先行してより以上の高温化が顕在化している都市のヒートアイランドを解決するためには、本学会が果たす役割は今後ますます重要となります。会員の皆様のご協力を期待するとともに、本文を目にされた一般の皆様には、日本ヒートアイランド学会をご支援、また、ご入会のほどよろしくお願いいたします。

2019年6月8日 日本ヒートアイランド学会会長
西村 伸也